



地域子育てネットワークだより

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課

E-MAIL : daniioseishounen@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 2780)

令和6年2月号



子育て支援メッセ

in たつの

参加
無料

2024年2月23日(金・祝) 11:00~15:00

会場：たつの市新宮ふれあい福祉会館

子育て支援団体や企業、行政などが集まって、子育て中のパパママ、支援者がつながるイベントを開催します！

うたのステージや楽しいブースがもりだくさん！！他にも楽しいコーナーがいっぱいあるので、ぜひご来場ください！あかとんぼくん・はばタンもくるよ♪

キッズダンス

魚釣りゲーム

おかしすくいにチャレンジ！

小児鍼体験

移動図書館

はたらくくるまフォトブース

段ボールであそぼう

お土産
あるよ♪



一部、事前申込が必要なものがあります。詳細をご確認ください。

主催：兵庫県・ひょうご子育てコミュニティ・子育て支援メッセ応援隊

協力：しんぐう Next・生活協同組合コープこうべ第7地区本部

後援：たつの市・たつの市教育委員会・たつの市社会福祉協議会・神戸新聞社

子育て支援メッセ実行委員会事務局
(NPO法人生涯学習サポート兵庫)
TEL : 079-230-0661 Mail : kappa@shosapo.jp



「まちの子育てひろば」に行ってみよう！

「まちの子育てひろば」は、子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりを通して子育ての悩みを話し合ったり情報交換等を行える場で、県内に約2,000箇所開設されています。

親子(原則未就学児)を対象に、絵本の読み聞かせや人形劇などの遊びを提供したり、子育ての相談に応じたり、親子体操・工作・季節のイベント等様々な体験活動が行われています。また、兵庫県に登録しているひろばには、色々な体験活動を実践指導してくれる

「ひろばアドバイザー」や「動く・こどもの館号」の派遣を行うなど「まちの子育てひろば」の運営の活動支援を行っています。お住いの地域にある「まちの子育てひろば」を利用してみませんか？

各地域のひろば情報は兵庫県のHPに掲載しています。

[まちの子育てひろば](#)



子育て応援ネットの活動紹介



声かけ・見守り活動などで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」の各地の取り組みを紹介します

加古川市子育て支援ネットワークでは、事件や事故の未然防止と地域の安全・安心のため、登下校中の児童・生徒や子育て家庭への**声かけ・見守り活動**を実施しています。

また、お母さんと赤ちゃんを対象にした**イベントを定期的**に開催しています。

七夕やひな祭りなどの季節の行事に合わせて実施する「ピヨピヨサロン」は、童謡や遊びを通じた**次世代への文化継承の場**であり、**お母さん同士の交流の場**にもなっています。そのほか巻き寿司やおはぎを作る「ママクッキング」、レッスンバッグなどをミシンで作る「ママソーイング」では、子育て中の人たちへ**季節のごはん食や手作りの楽しさ**などを伝えてきました。



次年度以降は、子どもたちを交通事故から守るための**見守り活動や交通安全啓発**を主とした取り組みで、**地域の安全・安心を守り**ながら、引き続き**子育て家庭の応援**に取り組んでまいります。

加古川市子育て支援ネットワーク 会長 岸本 正子

まちの子育てひろばの活動紹介



猪名川町 ツインズママの会



川西市や猪名川町その他、近隣市町の**多胎児(双子、3つ子)のためのサークル【ツインズママの会】**です。こちらでは月1回、第3日曜日の10時から川西公民館・視聴覚室(キセラ川西プラザ福祉棟3階)で活動をしています。

多胎ならではの悩みや情報共有、課外活動のお芋掘りやハロウィン・クリスマス会などの季節行事、県からひろばアドバイザーを派遣していただいたり、講演やリサイクル会なども開催しています。**アットホームな雰囲気**で、**初めての参加でも楽しく活動されていますよ**。



今後は消防署見学、和太鼓体験、ヨガ、アロママッサージ、ヤクルト様の講演会などを計画中です。

お近くに**双子ちゃんや3つ子ちゃん**がいたら是非**お声掛け**いただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

ツインズママの会 福永 笑美



連載

第167回

阪神・淡路大震災で学んだ子どものこころのケア

県立こども病院名誉院長 中村 肇

新年早々の能登半島地震による揺れ、思わず阪神・淡路大震災を思い浮かべました。**PTSD(心的外傷後ストレス障害)**という言葉が、広く知られるようになったのが阪神・淡路大震災の時です。

大災害が子どものこころに大きな影響を与えるのは、災害の正体が分からず、また、**自分で対処できる範囲も限られている**ため、余計に不安になっているからです。

怖い体験や喪失体験(親しい人との別離、住居の破壊、生活環境の変化、おもちゃ・人形の紛失など)あるいは、長期にわたる避難生活は、**子どもにとって強い苦痛**となり、身体症状や行動上の問題として表われます。

これらの反応そのものは、**誰にでも認められる**ものですが、その苦しみが少しでも和らぐよう、**適切な時期に、的確に支援することが必要**です。思い出すのは、**学校が再開され、クラスメートと久方ぶりに出会ったとき**の子どもたちの満面の笑顔です。**一番の良薬**だったようです。

